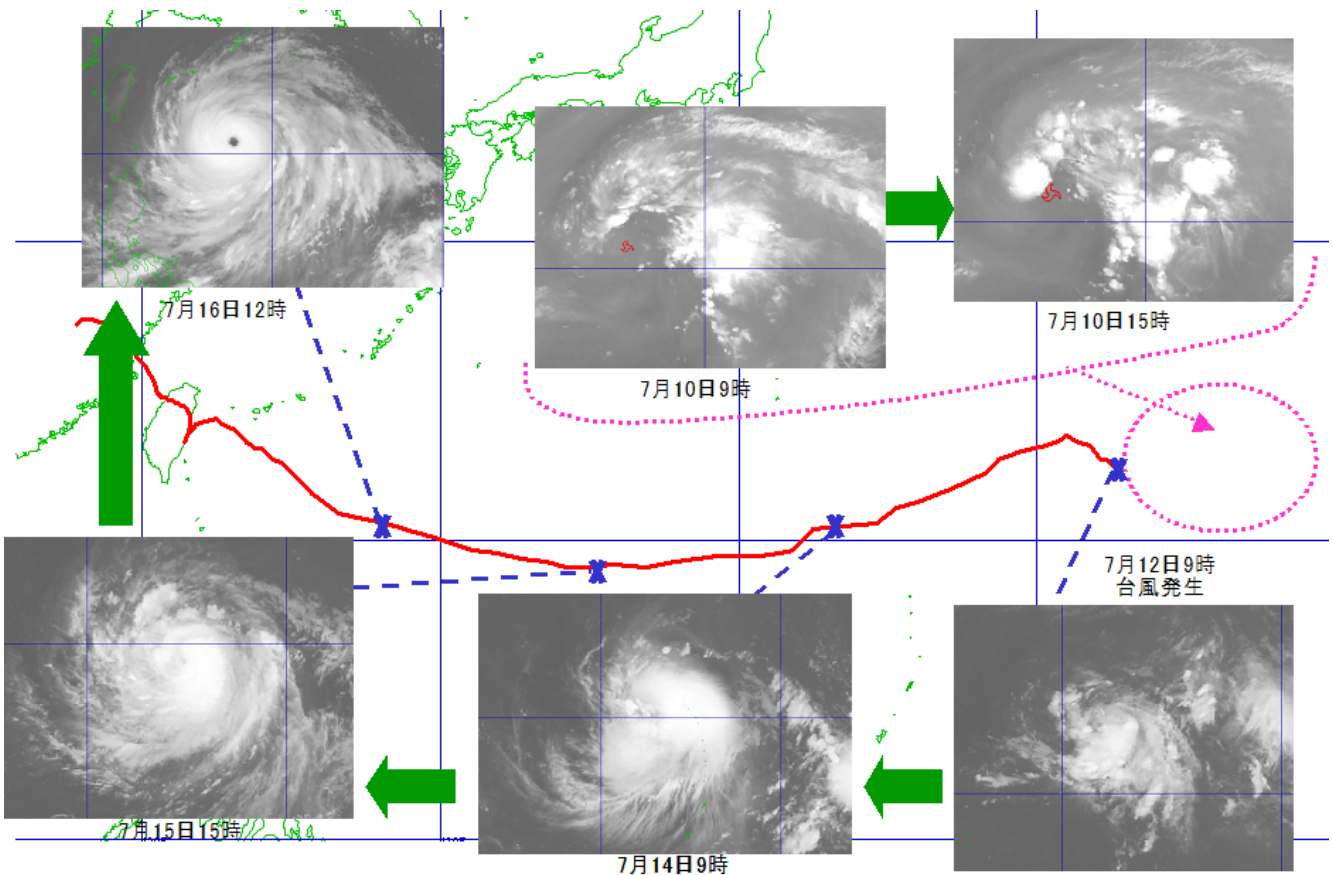


今月の気象衛星画像 (2005年7月)



上段右から2枚の図は7月10日9時と15時の水蒸気画像、その他は7月12日から16日までの赤外画像。赤線は台風のベストトラック、青い破線は台風の位置を示す。

上層寒冷渦周辺で発生し発達した台風第5号

台風にはいくつかの発生形態があるが、その中の一つにUC型（上層寒冷渦近傍型）がある。その発生理由は寒冷上層渦の東と南象限に形成される上層発散場が、その南にあるITCZ(Intertropical Convergence Zone: 熱帯収束帯)上の擾乱の発生及び初期の発達に好適な総観場を与えるためであると言われている。しかし、このパターンで台風に至るまで発達するケースは一年に一度あるかないかであり、大変少ない。台風第5号はこの稀なパターンで発生した。

7月10日9時の水蒸気画像を見ると上層寒冷渦が明瞭であり、その東側でCbが発生している。その日の15時には上層寒冷渦付近にCbが発生し始め、12日9時には台風となった。上層寒冷渦周辺で発生した台風は成長に時間がかかり、発達しにくいという特徴がある。台風第5号もしばらく盛衰を繰り返していたが、14日以降その雲域を拡大させながら徐々に発達していき、16日の21時には中心気圧は915hPaまで下がり、眼のはっきりとした台風となった。

(気象衛星センター)